

様式第5号(第5条関係)

令和8年1月21日

愛西市議会議長  
近藤 武 様

愛西市議会議員 高松 幸雄

令和7年度政務活動費収支報告書

愛西市議会政務活動費の交付に関する条例第7条第1項に基づき、下記のとおり報告します。

記

1 収 入 204,000 円  
(政務活動費 204,000 円)  
(利 息 0 円)

2 支 出 102,140 円

(単位:円)

項 目	金 額	備 考
調査研究費		
研 修 費	102,140	
広 報 費		
広 聴 費		
要請・陳情活動費		
会 議 費		
資料作成費		
資料購入費		
合 計	102,140	

3 残 余 金 101,860 円

(注)備考欄には、主たる支出の内訳を記載する。



様式第6号(第5条関係)

令和7年度政務活動費収支報告書

愛西市議会議員 高松 幸雄

(単位 円)

	領収書番号	内容	支出額
研修費	1	全国市議会議長会研究フォーラム交通費	47,040
	2	全国市議会議長会研究フォーラム参加費	9,000
	3	全国市議会議長会研究フォーラム小樽市視察研修費	17,000
	4	全国市議会議長会研究フォーラム宿泊費	15,400
	5	全国市議会議長会研究フォーラム宿泊費	13,700
			102,140
広聴費			
			0
要請・陳情活動費			
			0
会議費			
			0
資料作成費			
			0
資料購入費			
			0
		支出額計	102,140
		収入額計	204,000
		残余金	101,860

様式第7号(第5条関係)

政務活動費支出明細書

氏名		会計年度	領収書番号
高松 幸雄		7年度	1
項目	<input type="checkbox"/> 1 調査研究費	<input type="checkbox"/> 5 要請・陳情活動費	支出日 令和7年8月10日 8月27日 29日
	<input type="checkbox"/> 2 研修費	<input type="checkbox"/> 6 会議費	
	<input type="checkbox"/> 3 広報費	<input type="checkbox"/> 7 資料作成費	
	<input type="checkbox"/> 4 広聴費	<input type="checkbox"/> 8 資料購入費	
政務活動費 充当支出金額	金. 47,040 円		
按分または 一部充当の場合	政務活動費からの支出割合( ) 領収書金額 金. _____ 円 領収書原本は ( ) 議員に添付		
支出方法	<input checked="" type="checkbox"/> 全額個人 <input type="checkbox"/> 按分(按分人数 _____ 人 1人あたり _____ 円) 按分者名 [ _____ ] 按分割合の根拠 ( )		
内容	全国市議会議長会研究フォーラムin札幌交通費		
《領収書及び購入した物品等がわかる写真等貼付欄》 (領収書なし) 8月27日 29日 近鉄富吉駅 ⇄ 近鉄名古屋駅 360円×2=720円 8月27日 29日 名鉄名古屋駅 ⇄ 中部国際空港980円×2=1,960円 8月27日 29日 JR新千歳空港駅 ⇄ 札幌駅 1,230円×2=2,460円 (領収書あり) 8月10日 中部国際空港 ⇄ 千歳空港 41,900円(往復)			

領 収 証 高松 幸雄 様 No. \_\_\_\_\_

★ ¥41,900.-  
但し 航空券代とLT

2025年 8月10日 上記正に領収いたしました

収 入 印 紙	内訳	
	税抜 金額	38,091
	消費税額等 (10%)	3,809

近畿日本ツーリズム株式会社  
愛知県知事登録旅行代理店  
FBトラベル大店  
〒484-0066 愛知県犬山市 135-6  
カネスエビル 下棟  
TEL. 0568-65-2920 FAX. 0568-65-2921  
登録番号 T8180001059416



様式第7号(第5条関係)

政務活動費支出明細書

氏 名		会計年度	領収書番号
高松 幸雄		7年度	2
項 目	<input type="checkbox"/> 1 調査研究費 <input type="checkbox"/> 5 要請・陳情活動費 <input checked="" type="checkbox"/> 2 研 修 費 <input type="checkbox"/> 6 会 議 費 <input type="checkbox"/> 3 広 報 費 <input type="checkbox"/> 7 資料作成費 <input type="checkbox"/> 4 広 聴 費 <input type="checkbox"/> 8 資料購入費	支出日 令和7年8月13日	
政務活動費 充当支出金額	金. 9,000 円		
按分または 一部充当の場合	政務活動費からの支出割合( ) 領収書金額 金. _____ 円 領収書原本は ( ) 議員に添付		
支 出 方 法	<input checked="" type="checkbox"/> 全額個人 <input type="checkbox"/> 按分(按分人数 _____ 人 1人あたり _____ 円) 按分者名 [ _____ ] 按分割合の根拠 ( )		
内 容	全国市議会議長会研究フォーラムin札幌参加費		
《領収書及び購入した物品等がわかる写真等貼付欄》 全国市議会議長会研究フォーラムin札幌参加費 領収書別添付			

第20回全国市議会議長会研究フォーラム in 札幌

令和7年8月13日

高松 幸雄 様

参加費領収書

東京都千代田区平河町2-4-2

第20回全国市議会議長会研究フォーラム実行委員会

委員長 丸子 善弘

金 9,000 円 (不課税・消費税対象外)

第20回全国市議会議長会研究フォーラム in 札幌の参加費として

令和7年8月27日・28日開催 (札幌市)



領収書 号 3

領収証発行日: 2025年08月25日

1/2

収入印紙

〒060-0001  
北海道札幌市中央区北一条西6丁目1-2  
アーバンネット札幌ビル8階

株式会社JTB 北海道事業部  
事業部長 大川 正勝

領収証番号: 325394317000092001

登録番号: T8010701012863

## 領 収 証

高松 幸雄 様

下記のとおり領収いたしました。

領収額合計 17,000円 (税込)

イベント名	第20回全国市議会議長会研究フォーラムin札幌
-------	-------------------------

イベント会期	2025年08月27日 ~ 2025年08月28日
--------	---------------------------

請求額合計	(税込)	内消費税/税区分
	17,000円	1,545円 -
(10%対象)	17,000円	1,545円 -
(8%対象)	0円	0円 ※1
(対象外)	0円	0円 ※2

入金額	17,000円
-----	---------

請求残額	0円
------	----

※1 軽減税率適用

※2 消費税対象外商品

領収証備考

明細は次頁以降をご参照ください。

# 領収明細

領収書番号 3

領収証発行日: 2025年08月25日

2 / 2

領収額合計 17,000円 (税込)

【内訳】

イベント名		第20回全国市議会議長会研究フォーラムin札幌				
イベント会期		2025年08月27日 ~ 2025年08月28日				
申込日	ご利用日・内容	本体単価 (税込)	数量	本体合計 (税込)	税区分 内消費税	
2025年06月27日	2025年08月28日 11:50 Eコース 小樽市「日本遺産認定/北海道の『心臓』と呼ばれたまち・小樽」視察 高松 幸雄 様	17,000円	1	17,000円	10%	
① 請求額合計				17,000円	1,545円	
(10%対象)				17,000円	1,545円	
(8%対象 ※1)				0円	0円	
(対象外 ※2)				0円	0円	
② 入金額				17,000円		
③ 請求残額				0円		

※1 軽減税率適用

※2 消費税対象外商品

様式第7号(第5条関係)

政務活動費支出明細書

氏 名		会計年度	領収書番号
高松 幸雄		7年度	4
項 目	<input type="checkbox"/> 1 調査研究費 <input type="checkbox"/> 5 要請・陳情活動費 <input type="checkbox"/> 2 研 修 費 <input type="checkbox"/> 6 会 議 費 <input type="checkbox"/> 3 広 報 費 <input type="checkbox"/> 7 資料作成費 <input type="checkbox"/> 4 広 聴 費 <input type="checkbox"/> 8 資料購入費	支出日 令和7年9月5日	
政務活動費 充当支出金額	金. 15,400 円		
按分または 一部充当の場合	政務活動費からの支出割合( ) 領収書金額 金. _____ 円 領収書原本は ( ) 議員に添付		
支 出 方 法	<input checked="" type="checkbox"/> 全額個人 <input type="checkbox"/> 按分(按分人数 _____ 人 1人あたり _____ 円) 按分者名 [ _____ ] 按分割合の根拠 ( )		
内 容	全国市議会議長会研究フォーラム宿泊費		
《領収書及び購入した物品等がわかる写真等貼付欄》 令和7年8月27日宿泊費 領収書別添付			



様式第7号(第5条関係)

政務活動費支出明細書

氏名		会計年度	領収書番号
高松 幸雄		7年度	5
項目	<input type="checkbox"/> 1 調査研究費	<input type="checkbox"/> 5. 要請・陳情活動費	支出日 令和7年8月28日
	<input checked="" type="checkbox"/> 2 研修費	<input type="checkbox"/> 6 会議費	
	<input type="checkbox"/> 3 広報費	<input type="checkbox"/> 7 資料作成費	
	<input type="checkbox"/> 4 広聴費	<input type="checkbox"/> 8 資料購入費	
政務活動費 充当支出金額	金. 13,700 円		
按分または 一部充当の場合	政務活動費からの支出割合( ) 領収書金額 金. 円 領収書原本は ( ) 議員に添付		
支出方法	<input checked="" type="checkbox"/> 全額個人 <input type="checkbox"/> 按分(按分人数 人 1人あたり 円) 按分者名 [ ] 按分割合の根拠 ( )		
内容	全国市議会議長会研究フォーラム宿泊費		

《領収書及び購入した物品等がわかる写真等貼付欄》  
令和7年8月28日宿泊費

領収書兼 利用明細書  
タカマツユキギオ 様

領収金額	¥13,700
宿泊代	¥13,700
小計	¥13,700
(10%対象)	¥13,700
(8%対象)	¥0
合計	¥13,700
現金	¥13,700

\* 軽減税率適用 \*\* 課税対象外

宿泊期間: 2025/08/28 - 2025/08/29

アパホテル<札幌すすきの駅前>

〒064-0804  
北海道札幌市中央区南4条西2丁目2-5  
TEL:(011)511-4111  
FAX:(011)513-0774

アパホテル株式会社  
登録番号: T4010401043403  
取引番号: 250828000954207

担当者



収入印紙

・本領収書は再発行できません。2025/08/28

令和7年9月25日

愛西市議会議員  
近藤 武 様

愛西市議会議員 高松 幸雄

先進地調査等成果報告書

研修に 下記のとおり 参加 しましたので、愛西市議会政務活動費の交付  
に関する条例第9条第2項の規定により報告します。

記

1. 調査・研修日	令和7年8月27日 28日 29日		
2. 調査・研修先	全国市議会議員会研究フォーラムin札幌 札幌文化芸術劇場hitaru 北海道札幌市中央区北1条西1丁目		
3. 調査・研修内容	地方議員のなり手不足問題の解決に向けて 小樽市「日本遺産認定 北海道の心臓と呼ばれたまち」小樽視察		
4. 行 程	別紙のとおり		
5. 参加者	愛西市議会議員 高松幸雄		
6. 経費内訳	費 目	内 容	金 額
	交通費	別紙	47,040円
	参加費	フォーラム参加費	9,000円
	参加費	小樽市視察参加費	17,000円
	宿泊費	コンフォートホテル札幌すすきの	15,400円
	宿泊費	アパホテル札幌すすきの駅前	13,700円
		合 計	102,140円
7. 成果・提言	別紙のとおり		



(別紙) 先進地調査等成果報告書

◎行程 8月27日(水)～8月29日(金) 2泊3日

往路 近鉄富吉駅～名鉄新名古屋駅～中部国際空港～新千歳空港～JR札幌駅～会場

復路 会場～JR札幌駅～新千歳空港～中部国際空港～名鉄新名古屋駅～近鉄富吉駅

受講 8月27日(午後1時～午後6時) 8月28日(午前9時～午前11時)

視察 8月28日(午前11時30分～午後6時30分)

◎成果・報告

**研修の目的** 全国の市区議会議員が一堂に会し、共通する政策課題等について情報交換を行うとともに議員同士の一層の連携を深める目的があり、第20回全国市議会議長会研究フォーラムでは「地方議会議員のなり手不足問題の解決に向けて」をテーマに学ぶ

**研修概要**

令和5年の通常国会において地方議員の役割及び議員の職務等の明確化などを内容とする地方自治法の一部改正法が成立するなど、多様な人材の地方議会への参画促進に向けた環境整備が進められている。若者や女性、会社員など多様な人材の市議会への参画を促し、議会を活性化することは多くの市議会に共通の緊要な課題である。一方、議員のなり手不足が深刻化している。今後は、人口減少の加速化や超高齢化の進展などにより議員のなり手不足が多くの市に広がることが危惧されており、多様な人材の市議会への参画を促す対策は議員のなり手不足を克服する一助にもなると期待されている。市議会は実情を踏まえ、主体的・持続的な議会改革を進め、それぞれ市の最高意思決定機関として市民にとって魅力ある議会をつくる必要がある。今回の研究フォーラムでは「地方議会議員のなり手不足問題の解決に向けて」をテーマとし、各市における地方議員のなり手不足問題に係る事例検証をするなど、改めて地方議会の課題を整理した上で、その解決に向けた今後の方向性を展望する。

**プログラム1日目**

■基調講演「主権を預かる誇りと責任」について 伊吹文明元衆議院議長

(要約)

議員とは「主権者である国民から信託を受けた者」であり、その責任は極めて重いと語った。市議会議員は市長などの執行機関に対して安易に予算を通すのではなく行政を監視し、政策の妥当性を吟味する役割を担うべきと強調。また、議員の待遇や社会的地位の低下が優秀な人材の政治離れを招いている現状にも言及し、優秀な人材が議員になりたがらない現実に対して、制度的な見直しが必要と述べた。

■パネルディスカッション

テーマ「多様な人材の参画促進の観点から地方議会議員のなり手不足問題を考える」

コーディネーターとして辻陽(つじあきら)近畿大学法学部教授、パネリストとして牧原出(まきはらいづる)東京大学教授、白石洋一(しろいしよういち)読売新聞東京本社政治部次長、山下節子(やまのふし)山口県宇部市議会議長と長内直也(ながうちなお)北海道札幌市議会議長から第32次、第33次地方制度調査会での調査結果報告と議会の役割について発表があった。

## 現状と課題

近年、地方議会における議員のなり手不足が深刻な社会課題となっており、無投票当選の増加や議員の高齢化が顕著である。特に人口規模の小さい町村部では無投票当選や定数割れが常態化しつつあり、住民自治の根幹を揺るがす事態となっている。令和5年の統一地方選挙では、町村議会のうち123団体が無投票となり、31団体が定数割れが発生した。議員の平均年齢は60代半ばに達し、女性や若年層の比率は依然として低水準にとどまっている。このような状況の背景には政治への関心の低下、議員報酬の低さ、年金制度の不備、兼業の困難さ、育児・介護との両立の難しさ、議会の閉鎖性などの要因が考えられる。

## 年金制度の見直しについての考察

現在、地方議会議員は原則として国民年金に加入しており、議員活動に専念する場合は厚生年金に加入できない。かつて存在した地方議員年金制度は平成23年に廃止されており、退職金制度も存在しない。このような制度は議員活動を職業として選択することへ躊躇する要因となっており、特に若年層の政治参加の妨げとなっている。

## まとめ

本研修では地方議会における議員のなり手不足問題について多様な人材の参画促進という視点から考察を行った。特に町村議会における無投票当選の増加や議員の高齢化、若年層の政治参加への躊躇、女性議員の少なさなど議会の構成における多様性の欠如が顕著であることが指摘された。議員報酬の見直しや厚生年金への地方議員の加入など議員の処遇改善が急務であり、休日・夜間議会開催などの柔軟化、兼業・副業を可能にする、オンライン議会の検討、育児や介護をしながら議員活動ができるようにする、立候補に際する休暇取得を可能にするなど多様な人材の参画促進の観点から地方議会議員のなり手不足問題を解決できる唯一の方法ではないかという結論に至った。

## プログラム2日目

### ■課題討議

テーマ「地方議会議員のなり手不足問題の取組報告」

コーディネーターとして牧瀬 稔(まきせ みのる)関東学院大学法学部地域創生学科教授、事例報告者として今井 康善(いまい やすよし)長野県岡谷市議会前議長、平神 純子(ひらがみ じゅんこ)鹿児島県南さつま市議会議員、中野 進(なかの すずむ)石川県白山市議会議長から事例報告があった。課題討議ではコーディネーターから小規模市議会議員のなり手不足は報酬が低い、政務活動費がない(少ない)、住民との距離が近いためプライベートが確保できないなどの理由から働くことに魅力が感じられない、議員になろうと思わないという実態がある。議員の待遇が月額約21万円、福利厚生・昇給・退職金なしといった実態が紹介されコスパの悪さが若年層の参入を阻む要因として指摘された。更に議員生活終了後の不安から優秀な人材の参入を阻む要因となっていることが強調された。

### 長野県岡谷市議会の挑戦

長野県岡谷市議会では令和5年の市議会議員選挙において、定数18に対して立候補者が17人しか集まらず、市制施行以来初の定数割れ・無投票当選という異例の事態が発生。市議会では岡谷市だけが全国唯一の定数割れになった。この出来事は地方政治における「議員のなり手不足」問題を象徴する深刻なケースとして全国的にも注目された。そこで岡谷市議会では議会改革検討委員会を設置して議会情報のオープン化(情報共有)として各議員の「政治家を志した理由」「地域のありたい姿」解決したい課題」など政策を公開した。住民の議会への参加(住民参画)として各世代対象に市議会講座や議場コンサートの開催、議会機能の強化(機能強化)として議会運営の専門家を招いたシンポジウムを開催するなど、なり手不足対策に取り組む。

### 愛西市における提言

1. 勤労者・若者が立候補しやすい環境整備  
(夜間・休日議会の導入を検討して会社員や子育て世代が議員活動を両立しやすくする)
2. 議会活動の「見える化」と市民啓発  
(議場見学・議場コンサートの開催などを通じて政治参加意識を育成する)  
「議員って何をしているの?」という素朴な疑問に答えるチラシ・動画を制作する
3. 市民との協働による議会改革  
議会運営の専門家を招いたシンポジウムを開催する  
(議員定数・報酬・議会運営に関する市民との意見交換の場を設ける)  
女性・若者・地域団体との連携強化  
(農業者・福祉関係者など地域に根ざした人材への働きかけ)
4. 議会運営の柔軟化とデジタル活用  
オンライン委員会出席の検討(育児・介護中の議員も参加しやすい環境を整備する)
5. 報酬・待遇の見直し  
(議員報酬を生活が成り立つ水準への見直しと厚生年金への地方議員の加入を推進)

■視察先 小樽市「日本遺産認定/北海道の心臓と呼ばれたまち・小樽」  
「構成文化財を活用した地域活性化や交流人口増加への取組」

### 視察の目的

本視察は地域に点在する構成文化財(歴史的建造物、伝統的景観、民俗資料等)を活用した地域活性化と交流人口の増加への取組の実態を把握することを目的とした。

(小樽市の歴史と背景)

### ■明治時代

- ・北海道開拓の拠点として港湾整備が進み、石炭積出港として発展
- ・明治13年には北海道初の鉄道「官営幌内鉄道」が敷設され、物流拠点に
- ・明治30年代には小樽周辺ではニシン漁が盛んで網元は「鯨御殿(にしんごてん)」と呼ばれる豪邸を建てるほどの富を得る
- ・明治32年、小樽港は特別輸出港に指定され、石炭・穀物・海産物などの輸出拠点として機

能

#### ■大正時代

- ・小樽運河の開削（大正12年完成）により商業都市としての地位が確立される
- ・小樽運河の誕生により港湾機能が強化され、全国13位の人口を誇る都市に
- ・最盛期には25行もの銀行が小樽に支店を構えて北のウォール街と称されるに至った
- ・小樽には旧三井銀行、日本銀行旧小樽支店、旧北海道拓殖銀行などの重厚な銀行建築が今も残り、当時の繁栄を物語っている

#### ■昭和時代～平成時代

- ・小樽はかつて北日本随一の商都として繁栄したがニシン漁の衰退や石炭輸送の減少により、昭和後期から人口・経済ともに減少傾向になる
- ・荒廃した運河の埋め立て計画を契機に市民が歴史的遺産の保存・再生に立ち上がり「民の力」によるまちづくりが始まった

#### ■令和時代

- ・小樽市は令和7年、小樽独自の貴重な歴史文化遺産を日本遺産として登録するための取組を進めてきた結果、「北海道の『心臓』と呼ばれたまち・小樽～『民の力』で創られ蘇った北の商都～」というストーリーで初の単独日本遺産に認定された
- ・この認定を契機に歴史的建造物や港湾施設などの構成文化財を活用し、地域の魅力を内外に発信する方針が明確化された

■現在は小樽運河や歴史的建造物を活かした観光都市として再生、観光客の誘致により宿泊・飲食・体験型サービスなどの地域産業が活性化を推進、小樽運河やガラス工芸、レトロ建築が人気を集め国内外からの観光客が増加している

(小樽市の取組の特徴)

市民主体の保存活動と行政の支援が連携

単なる観光地化ではなく、「歴史を語るまち」としてのブランディング

若者や移住者による空き家活用や文化事業の創出

小樽の事例は、地域の歴史的資源を「過去の遺物」ではなく「未来への資産」として再定義した好例となる

(小樽市の事例から愛西市が参考にできるポイント)

■地域の物語性を活かしたブランディングとして

小樽は「北海道の『心臓』」というストーリーで日本遺産に認定された

本市も、水郷文化・農業遺産・旧街道沿いの歴史などを軸に地域独自の物語を構築することで文化財の価値を再定義できるのではないか

■交流人口の増加を意識した体験型コンテンツとして

小樽では歴史的建造物を舞台にしたイベントや体験型観光（ガラス工芸、運河クルーズなど）を展開して交流人口を増加させている

本市もレンコン掘り体験、水郷めぐり、伝統行事の参加型プログラムなどを通じて都市部から

の来訪者を呼び込むことができると考える

交通費内訳

近鉄富吉駅 ⇔ 近鉄名古屋駅<sup>↑</sup> 片道 360 円×2

名鉄新名古屋駅 ⇔ 中部国際空港駅 片道 980 円×2

中部国際空港 ⇔ 新千歳空港 41,900 円(往復運賃)

新千歳空港駅 ⇔ JR 札幌駅 片道 1,230 円×2